



私の修学旅行日記

校長 尾崎 淳一

3年生の皆さんが楽しみにしていた修学旅行。2泊3日の長丁場なのに、文字どおり「あっ」と言う間に終わってしまいましたね。それだけ、仲間とともに濃厚な時間を過ごせたということでしょう。『修学旅行のしおり』には、ぎっしりと思い出が詰め込まれていることでしょう。せっかくなので、私の思い出の一部を公開したいと思います。

- 猛スピードで走る新幹線の中でジャンプしても、同じ位置に着地できるのは不思議です。「慣性の法則」によるものと、理科教師から学びました。某理科教師は、車内で「実験動画」を撮影していました。授業準備だそうです。私をはじめ、まじめな竜北の教員です。
- 富士山の近くでは、景観条例に基づき、コンビニの看板がこげ茶色に塗装されていました。私の乗った〇組のバスの後方から、「火山灰かなあ……」という素敵なたづなやきが聞こえてきました。最近、富士山は噴火したでしょうか。私は真剣に悩みました。
- 神秘的な富士山麓の「**洞窟・樹海体験**」は、いかにもミステリーツアーという感じで楽しみでした。しかし、実際には貴重品管理のため、バスの車窓から竜北生の後ろ姿を見送るのみでした。初対面のバスの運転手さんと2人きりで過ごす3時間のお留守番は、まさに神秘的な時間でした。
- ペンションの私の部屋名は「ラベンダー」。内装もパステル調で、**爽やかなイメージ**が私にぴったりです。1人部屋のため、修学旅行に欠かせない「**恋バナ**」もできず、2日目に備えて早めに寝ました。樹海をさまよう悪夢は見ませんでした。
- 「**夢と魔法の王国**」では約8時間、何も乗らずに本部待機でした。私の大好きな『空飛ぶダンボ』は、平日なのに30分待ちの大人気でした。竜北3年生も楽しんだことでしょう。行列にはファミリーとカップルばかりで、シングルライドの私はダンボライドを諦めました。
- グループに1台のデジカメを渡された竜北生は、グループの仲間や園内の景色を撮影していました。別にいじけたり寂しい思いをしたりしてはおりませんが、私には「**一緒に写真を撮りましょう!**」という竜北生の声が、8時間待っても一度も聞こえませんでした……。
- 知立市の日常生活では見たことのない、王国専用の**サングラスやカチューシャ、キャップ**を身に付けた竜北生をたくさん見ました。せっかくなので私もブームに乗ろうと、ショップで品物を手にしましたが、値札を見た瞬間に諦めました。知立市内でも使用したがったのに……。
- ホテルの私の部屋に入ると、見知らぬ荷物が2つ届いていました。タグに部屋番号を誤って記入した竜北生がいたようです。親切な私が両手に荷物を持って部屋を出ると、背後でドアが閉まる音が聞こえました。そして、私は二度と部屋に戻れなくなりました。**インロック**……。
- 3日目の「東京分散学習」でフリー活動を言い渡された私は、丸の内南口で4時間ほど竜北生の安全を見守りました。**芸能界**にスカウトされるかと思いましたが、そのような気配は全くありませんでした。内心ホッとしました。
- 帰りの新幹線でも竜北生は元気でした。私の前の席の愉快的な竜北生は、「モッツアレラチーズ」「モッツアレラチーズ」「**モッツアレラチーズ**」とだんだん大きな声で言っていく謎の遊びをしていました。私もいつ順番が来てもいいように準備しましたが、永遠に順番は訪れませんでした。



竜北3年生の皆さんの素晴らしさは、普段の生活で学んだことを修学旅行でも実践できたことです。「時間を守る」「挨拶をする」「仲間を大切にしてお過ごし」など、一人一人が意識した賜物ですね。中学校の修学旅行は、生涯に一度限りです。素敵な思い出を胸に、これからも充実した「竜北ライフ」を過ごしてください。**「竜北生、Go!!」**
私にとっても心に残る3日間となりました。**「竜北生、Thank you!!」**

3年生保護者の皆様、修学旅行ではお子様の送迎をはじめ、多大なお力添えをくださり感謝いたします。ご家庭の理解と協力あつての学校教育活動と、改めて認識した次第です。

(令和7年5月29日)